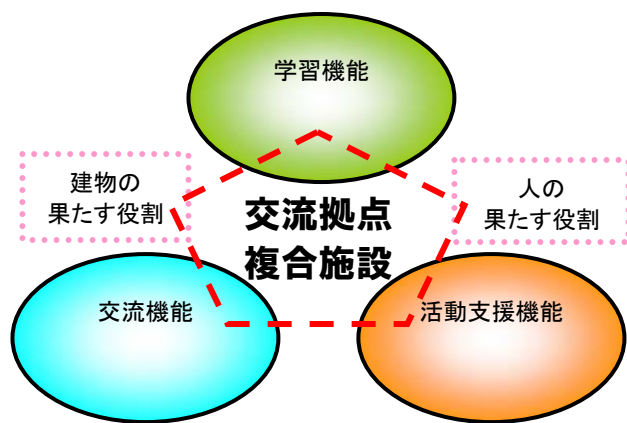


1. 交流拠点複合施設の趣旨・方向性(P4)

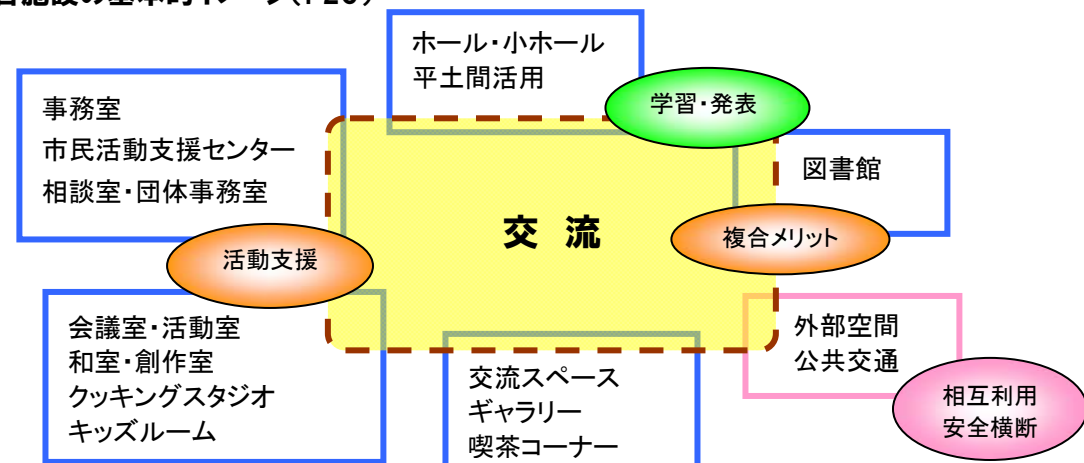
- ◆ 生きがいのための「学習」支援施設
生きがい創りは学習と交流から
- ◆ 発見・創造のための「交流」支援施設
各世代や異なる団体の交流で新たな価値創出
- ◆ 活動の受け皿となる「市民活動団体」支援施設
市民活動支援センターを中心とした活動支援
- ◆ 拠点性を活用した「発信」の場
施設を拠点化させることで人が集まる
- ◆ 「複合化」による効率的施設利用
各者の生活の T P O に合わせた効率的利用
- ◆ 持続可能な施設運営
使いやすいハードと利用者本位のソフト



2. ワークショップなどから導かれた施設の9つのコンセプト(P8)

- 1 制約が少なく人が集まりやすい施設**
✖ 飲食してもよいコーナー ✖ 防音の部屋を多数 ✖ 自分たちでルールを意識する施設
- 2 意欲や関心を引き出す施設**
✖ 自由にいられるスペース ✖ 外から部屋内の活動が見える ✖ 複合施設のメリットを引き出す図書館
- 3 多目的で自分たちにあった使い方ができる施設**
✖ 床材の配慮 ✖ 小規模～中規模の部屋を多数 ✖ 大規模の部屋に間仕切り ✖ 備品等の使い勝手
- 4 安全と安心が守られている施設**
✖ 移動距離や部屋配置の単純化と疲れにくい床、分かりやすい案内表示 ✖ ちょっとした休む場所や靴を脱ぐスペース ✖ エレベーター・階段・通路の手すりや余裕巾 ✖ 外通路を凍らないように ✖ 公共交通の利便性や道路横断の安全性 ✖ 子育て中の親子のためのキッズルーム ✖ 使いやすいキッチンスタジオ ✖ 屋外も活用した親子空間 ✖ ユニバーサルデザイン
- 5 活動を促す市民活動支援センター**
✖ 市民活動支援センターによる活動活性化 ✖ 事務員による講座の企画・相談・市民活動 P R ✖ 掲示板の活用 ✖ ネットワーク化とノウハウの蓄積 ✖ 各種相談に活用できる相談室 ✖ 市民参加による運営委員会 ✖ 話しかけやすい事務室配置
- 6 価値が創造される施設**
✖ 誰でも使いやすい交流スペース ✖ 気軽に活用できるギャラリー ✖ 若者が訪れやすい場所
- 7 利用実態を踏まえたホールの考え方**
✖ 使いやすいホールとは (大きなホールには制約がある) ✖ 平土間の面積確保で広がる利用 ✖ 客席数は 500 席 (電動移動観覧席使用時) プラス 2 階立見席 ✖ 総合公園体育館の活用やふるさと交流館との棲み分け ✖ ステージや音響、照明などを質確保
- 8 防災・省エネ・新エネ・省コスト**
✖ 各部屋やキッチンスタジオを災害と避難に配慮した作り ✖ エネルギー効率が良い室内温度の安定した施設 ✖ 災害時のエネルギーリスク分散と新エネルギー利用の多角的検討 ✖ 防災広場は 80m×80m (消防訓練やヘリポート) ✖ 総面積を抑え建築やランニングのコストを抑制
- 9 周辺施設との連携**
✖ 産業雇用創造センターとの相乗効果 ✖ 総合公園、老人福祉センター、公民館、役場庁舎との相乗効果 ✖ 敷地全体の景観の確保 ✖ キャンピアー (屋外覆い屋根) ✖ 既存施設の有効活用 ✖ 安全な道路横断 ✖ 公共交通の確保

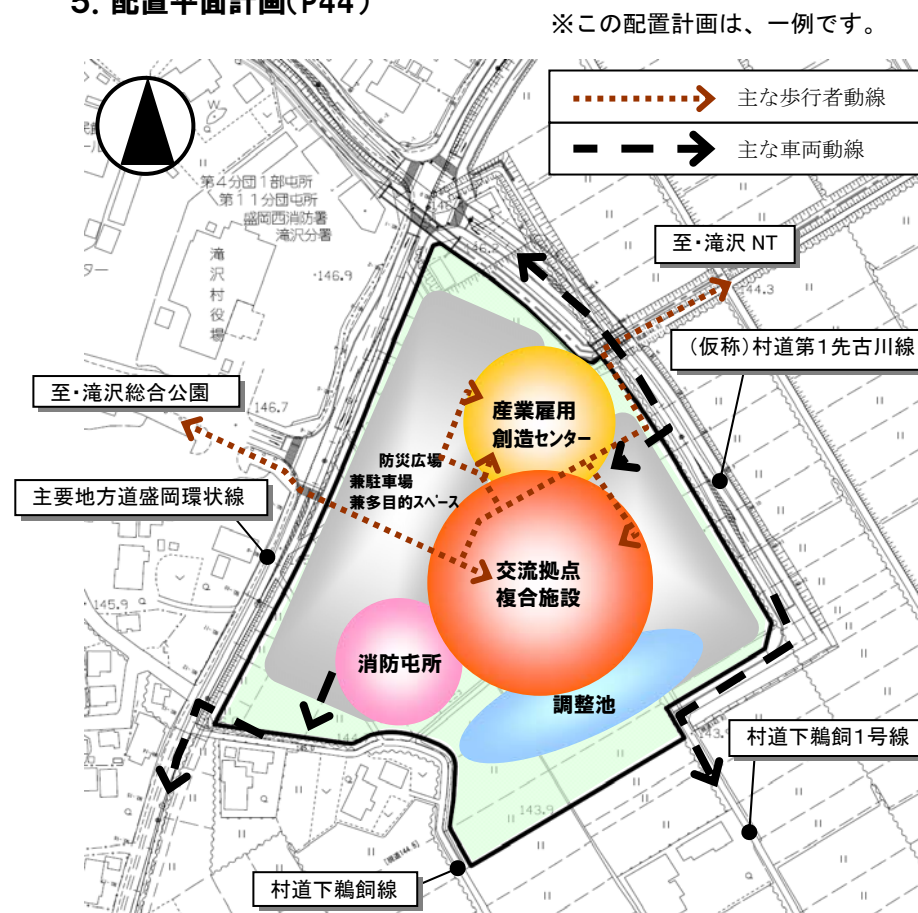
3. 交流拠点複合施設の基本的イメージ(P26)



4. 規模の整理(P36)

室名	面積(m ²)	基本計画
住民活動センター	95	管理事務室及び市民活動支援センター機能。館の管理運営と市民活動の支援。(事務室と併用) 事務室(10名)、応接室、職員ロッカーなど
会議室・活動室	340	少人数での利用が多い。極小部屋 20 m ² ×2 室、30 m ² ×2 室。自治会、保護者会などの会合やパーティーなどに中部屋約 90 m ² ×1 室(役場中会議室程度)。大会議室として大部屋約 150 m ² ×1 室(役場大会議室程度)、(3室に分割可)防音や給湯設備は、随所に配置
和室	60	10 畳×2 間、2 室分割可、ミニキッチン、収納、濡れ縁設置
キッチンスタジオ	80	従来の中央に固定式キッチンを設置するのではなく、壁側にキッチンを設置し、中央には、移動可能(持ち運び可能)な作業テーブルを配置し、様々な調理準備に対応する形式とする。交流スペースに対してガラス張り
創作室兼準備室	60	創作室のみとなると利用は余りない。そのため、調理室の裏方ルーム(根菜類、大鍋での煮炊き、調理室への資材搬入庫、バーベキューの準備など)といったキャンプ場の炊事場のような活用から木工教室、ペット教室、お花教室など汚れてもよいような部屋(土間仕上げ)
キッズルーム	85	遊具施設を配置した子ども達が遊べる空間とボランティアによる一時託児もできる部屋を設け、子育ての活動の支援、活性化を図る。
相談室	25	打合せテーブル(4人)×2 室。視覚的遮断により、プライバシーに配慮する。
団体事務室	55	会議スペース(打合せデスク2台)、貸出しロッカー室、印刷室
小ホール	250	集会 200 席程度。利用が多い、ダンス、舞踊、軽運動などはもとより、飲食を伴う集会や屋外のガーデンテラスと一体となった焼肉パーティー、なでしこジャパンなどのスポーツ観戦、仮設舞台や客席段床などによりちょっとした演劇、コンサートも利用。
事務室	0	住民活動センターと併用(一体化)。
ギャラリー・展示スペース	150	共用スペースと同じ空間にあるものの、ギャラリー・展示スペースとして区切られた空間とする。
ロビー・交流スペース	640	共用部とニュアンスは同じであるが、イス、テーブル、ソファなどが配置された空間。(飲食可) 情報コーナーも一角に設置。
喫茶コーナー	0	レストランは、別棟の産業雇用創造センター内に産直、食堂、加工場などとして一体の施設での構成を想定し、複合施設内では、授産施設などの喫茶を想定。飲食、給仕部分は、交流スペース内に含まれる。
ホール	1,200	[920 m ² (客席、舞台)+280 m ² (調光室、機械室など)] ふるさと交流館との棲み分け、特徴あるものとした社交ダンス、パーティ、大きな会合、武道系の可能な面積を踏まえ、平土間部分約 500 m ² (客席:スタッキングチェア約 200 席、ロールバックチェア約 300 席、計約 500 席)、2 階立ち見席、調光室、ホール機械室。
図書館	1,000	計画蔵書数 10 万冊とする。(一般開架 5 万冊、児童開架 1 万冊、閉架書架 4 万冊) 開架スペース、閲覧スペース、閉架書庫、児童スペース、サービスカウンター、ブラウジングコーナー他
共用部	960	風除室、階段、エントランス、エレベーター、廊下、倉庫など 共用面積をロビー640 m ² +ギャラリー150 m ² +共用部 960 m ² =1,750 m ² とすると、共用部は、専用部の概ね 50% 程度の面積であり、一定の確保がなされていると考えられる。
合計	5,000	

5. 配置平面計画(P44)



6. 概算事業費、スケジュール(P46,P47)

<概算事業費>

交流拠点複合施設	約 30.0 億円
産業雇用創造センター	約 3.4 億円
消防屯所	約 1.0 億円
計	約 34.4 億円

※この概算事業費は、用地、測量、設計、工事費を含む
※財源は、国庫補助金(社会資本整備総合交付金約 4 割)、起債(補助残の約 9 割)、一般財源を予定

<スケジュール(予定)>

- 平成 24 年度
プロポーザル公募、基本設計、用地交渉
- 平成 25 年度
用地取得、実施設計、造成工事
- 平成 26 年度～平成 27 年度
造成工事、建築工事
- 平成 28 年度
施設 OPEN